ド　イ　ツ　語

第１　高等学校教科担当教員の意見・評価

１　前　　文

共通テストの追・再試験が実施された。

本試験と同様に，高校で教える立場として受験者を英語に比較的近い環境で「高校で３年程度ドイツ語を継続して学んできた」と仮定し，評価したい。

追・再試験の受験者は，本試験に一度目を通していると仮定し，出題傾向を把握していると考える。そのため，入試の公平性を保つためには，追・再試験は全般を通じて本試験より難度がやや高いことが妥当だと考える。

なお，評価に当たっては，報告書（本試験）14ページに記載の８つの観点により，総合的に検討を行った。

２　内　容・範　囲

本試験と同様に全体の構成は大問７つ，設問数は51問，文法，会話，モバイル端末の画面，物語，特定のテーマ下での長文など，受験者には幅広い学習が求められる出題構成であった。

第１問　発音やアクセント，動詞や複数形のつくり方など基本的な知識を問う出題。若干の差ではあるが，本試験より取り組みやすい印象を受けた。

問１　アクセントのある母音の長短を問う出題。本試験より短い，身近な語が選択肢に並んでいる。

問２　つづりと発音の規則を問う出題。文中で使われている語の中にあるgがどのように発音されるのかが問われている。初の出題方式ではあるが特に問題はない。語の中のgはどの位置にあっても発音できるようにして欲しい。変化語尾がつくことで発音が変わる語も含まれている。günstigが本試験に続き出題されている。良問。

問３　国名とそれに対応する「～人（女性）」のアクセントを区別する出題。ドイツ語特有のアクセントの位置が問われている。本試験の語よりよく教科書で目にし，やや易。

問４　不規則動詞の人称変化を問う基本的な出題。①trennen，④werfenは本試験の動詞よりは目にする機会が少ない。

問５　不規則な変化をする動詞のうち，不定形の幹母音「e」が過去分詞になった時に「o」に変化する動詞を選ぶ出題。正答③treffenは重要な動詞であり，過去分詞が出題されていることで本試験より難度は下がる。

問６　複数形で-sをつけない名詞を問う出題。正答以外の語はsをつけた複数形としてよく教科書に挙げられている。

問７　３つのテーマ，Ａ:動物，Ｂ:科目・専攻，Ｃ：祝祭日に属さない語を探す。ドイツ語圏の文化について学んでいれば難しくはない。

第２問　文法的知識の正確性が問われている。格変化，再帰代名詞，副文など幅広い文法項目からの基本的な出題。文法事項を着実に，正確に学んだ受験者であれば正答を選ぶことができる。本試験よりも基本的な出題に感じる。

問１　et^3+bekannt+sein「～に知られている」が３格を取ることが分かるか。Kindernには複数３格の活用語尾もついており，３格の変化を選ぶことが推測可能である。

問２　sich[4]+vorstellen「自己紹介する」の時に用いる再帰代名詞sichの４格を選ぶ。主語はichであり，正答①michはよく目にする。

問３　４格の関係代名詞を選ぶ。den Anzug tragen「スーツを着る」は頻出の表現。本試験より短い文である。

問４　jn+nach+fragen「～に質問する」は熟語表現として知っていてほしい。

問５　知覚動詞として用いたsehenの後に続く動詞を選択する。知覚動詞は不定詞を取るので①が正答ではあるが，最近の教科書では知覚動詞をほとんど目にすることがなく，その用法まで文法事項として学んでいる受験者は少ない。英語の知識があっても，類推することは難しいかもしれない。

問６　文意から正答①müssenを選ぶ。

問７　Beschied+geben「知らせる」を選ぶ。問５とは逆に，最近のテキストで目にすることが多くなってきた表現である。

問８　文意と語順から従属接続詞wennを選ぶ。Auch wenn「～の時でも」。

第３問　与えられた語を空所に当てはめ，副文など，比較的複雑な文構造を持つ文を完成させる出題。不要な選択肢が１つある。唯一受験者が文を構成する出題であり，表現力を問うことができる。追・再試験８ページには設問が３つ掲載されているが，本試験と同様に，８ページに２問，９ページに２問配置した方が良いのではないか。

問１　従属接続詞währendを用いた副文中の再帰代名詞の位置と，主文の動詞の位置が問われている。sichが主語より前に置かれる並び替えは高度ではあるが，主語が明記されており配慮がなされている。従属接続詞としてのwährendはやや難。

問２　主文とそれに伴うzu不定詞句の並び替え。主文にあるda(r)+前置詞と，それに続くzu不定詞句の語法とeine Reise machen「旅行をする」という意味が問われている。

問３　２つの文を並列の接続詞aberで結ぶ文の並び替えではあり，解答箇所は単文の時と注意すべきところに差はない。完了形やseinを含む熟語表現も受験者には知っていてほしい表現。

問４　一文の中の並び替えであるが，使用されている語句はやや難しく，複数形であるElektroautosが主語となる状態受動であること，im Gegensatz zu「～とは反対に」という表現が使われていることが分かるか。

第４問　一連の比較的長い会話等を読み，設問に答える。Lara，Ben，Melanieの３名が学校で「理想の街」に欲しい施設に関する議論を行っている会話文に続き，帰宅したLaraが両親と同じ話題について会話をする構成となっている。本試験と同様に生徒・学生が登場人物となっており，受験者にとって想像のつきやすい身近な場面設定となっている。場面が最初に日本語で説明されているので，状況を理解しやすい。

問１　下線部㉔以下のMelanieのセリフが分かれば正答④を選ぶことができる。下線部㉔以下のセリフは，nicht nur，sondern auchを使いながら，Einkaufsmöglichkeitenについて具体的に説明している。

問２　[25]の質問の後に，einen großen Parkと４格を用いて答えている。４格を用いて答える疑問文は③しかない。hätteは接続法ではあるが，意見を求める際によく用いられる。

問３　[26]の後ろにある：（Doppelpunkt）以下に交通手段を表す語が挙げられているので，それを指す③を選ぶ。具体的な交通手段Busなどは学ぶだろうが，教科書によっては③Verkehrsmittelは学ばない可能性がある。

問４　下線部㉙までの文に，施設設備の位置関係についてのセリフが入っており，それらを統合すると②となる。Parkが街中にあり，Kulturviertelで芸術関係の施設があることが分かるか。

前置詞はdaと融合していても分かるようになってほしい。

問５　28 の前のセリフで，Melanieが空港は街中にあるべきだという主張が示されている。aberを挟み，28 以後で，Laraは空港そばでは暮らしたくないと反対であることを述べているので，①dagegenを選ぶ。賛成反対を表す表現である(da)fürと(da)gegenはセットで覚えて欲しい。

問６　下線部㉙以下のセリフでは，ショッピングセンターへの交通手段が話題となっており，学校で行った会話文に戻って読む必要がある。Benは，前の会話で①～③の内容を明確に述べており，消去法で選択することができる。

問７　両親とLaraは会話の中で，正答③と⑤について話している。正答③は問５で問われた箇所に書かれている。正答を選ぶことはそこまで難しくはない。

第５問　ドイツの語学学校に通うSaschaとKevinが，来週行うピクニックについて話をしている。対話の中に埋め込まれたスマホ画面も含めて内容を読み解く出題。本試験と同様に，状況の説明はドイツ語である。本試験と違い場面の移り変わりがなく，語数も少ない。

問１　否定語を含む質問に対して適切な受け答えを選ぶ。否定を打ち消す①Dochを含む回答を選ぶ。32 以下にCool!と言っているので，参加できることがより明確となる。受験者にはJa/Nein/Dochの表現を整理して使えるようにしてほしい。

問２　下線部㉝の直前に開催日時が書かれている。ドイツ語の日付や時刻の表現は英語とは違うところがあるので気を付けてもらいたい。

問３　34 を含む文にgenug「十分」という表現があることから，上に描かれたスマホ画面のリストが埋まっている項目を探す。Knabberzeugは難しい語かもしれないが，正答にたどり着くために意味を理解している必要はない。

問４　wie wäre es mit～?「～はどうだろう」と提案している。会話文でよく目にするようになった表現。他の選択肢の中にも，考えを聞くものがあるが，疑問詞や前置詞に注目して，④を選ぶ。

問５　下線部㊱の以下のセリフに材料名が書かかれており，絵から判断する。食材を表す語彙は膨大にあり，どこまでを基本的な語とするかは使用教科書に左右される。

問６　下線部㊱以下のnach「～の後に」を含む文を理解すれば，DeutschkursからEinkaufen，Saschaの家へ向かう流れが分かる。それより前にSaschaが「うちで料理をしよう」と持ち掛けているので正答③を選ぶことができる。

第６問　物語からの出題。ドイツ語の場合，物語では過去形が多用され，物語特有の表現を知っていなければならないが，対話が多く含まれているので過去形であるが故の読みにくさは感じない。しかし，主な登場人物の２人が男性で，第４問や第５問のように発話者が文字で明示されていないため，der Mannやerが誰を指すのか，誰のセリフなのかを常に整理する必要がある。本試験と追・再試験を通じて，ここだけ主人公がカタカナで表記されていることに違和感を覚えた。

問１　選択肢の出来事を，本文内の出現順ではなく，実際に起こった順に並べ替える。必ずしも物語の順番通りではないが，シュヴァムの子どもの話が一番古いことが分かれば，本試験ほど並び換えには苦労しない。

問２　適切な絵を選択する。判断するのは２つの要素である部屋の明かりの有無（kein Licht）とステッキの置き方（liegt）のみである。本試験より易。

問３　独問独答。本文20ページ下から４行目のシュヴァムのセリフの言い換えを選ぶ。winkenはやや難しいかもしれない。

問４　設問に対し，追・再試験では日本語で書かれた正答を選ぶ方式だが，本試験はドイツ語で書かれた正答を選ぶ。本文中にkeine Zweifel, ein Betrugなどやや難しい表現が並ぶが，設問と選択肢に日本語が書かれているので，本文理解の助けとなる。21ページのやりとりを読み取る。

問５　ここまでの設問を苦労なく解けた受験者にはそう難しくはない。正答③にあるようにホテルで会った男性が本当に手を振ったのかは，読み手の想像力に任されている。

第７問　集団心理についての文章である。現実に起こっている１つのテーマについて掘り下げた内容となっており，近未来の架空の話が題材だった本試験より，読みやすい印象を受けた。Tauziehenは難しい語ではあるが，挿絵があることで想像がつきやすい。また，本文内容についても本試験より自分の身近な例に落とし込みやすい印象を受ける。使用語彙や注に適切な配慮がなされており，使用語数も本試験より少ない。

問１　第１段落の最後の文と同じ内容となる表現を入れる。本文内容が理解できるのであれば正答①は選択できる。程度を表す表現を区別する。

問２　第２段落の内容を理解する。特に本文にあるbemerkenと④のentdeckenが同じ方向性で用いられていることが分かるか。内容に人間らしさが出ている。

問３　第３段落の内容が理解できれば，④を選択することができる。本文のweniger aktivと④のäußern sich seltenerが対応している。学校生活と照らし合わせても想像がつくかもしれない。

問４　第３段落の最後の２文の意味がとれるか。設問のneigenはやや難しい動詞。

問５　第４段落２行目から始まる文の文意をとる。特に，設問のfunktionierenが本文にあるeffektiver und besser werdenの言い換えであることに気付けるか。設問の語彙にも配慮がなされている。受験者よりも，教室で教える立場の方がこの場面の想像がつきやすいかもしれない。良問。

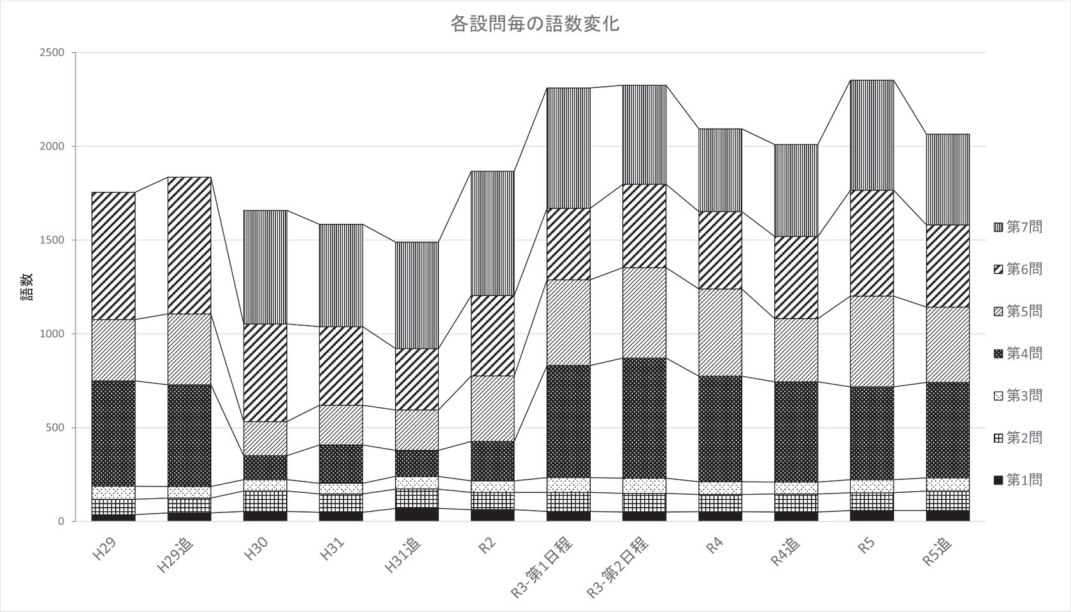
問６　第４段落の最後の文の意味に相当するものを選ぶ。問５が正答できているのならば，正答①を選ぶのは難しくない。問５と問６は，本試験と同様に，本文のほぼ同じ個所から出題する形式となっている。

問７　適切なタイトルを選択する。ここまで読めているのであれば，正答①を選ぶのは難しくはない。

３　分　量・程　度

昨年度の共通テストと同等の語数である。さらに，本試験と比較すると追・再試験の方が，使用語数が抑えられている。

本試験を基準として準備していた受験者には，分量が抑えられ取り組みやすい印象を受けたのではないか。全体的に口語表現が使われたとしても，状況や場面から類推可能であり，語彙や表現に一定の配慮を感じる。



4　表　現・形　式

今年度も類推不可能な口語表現はなかった。CEFR準拠のコミュニケーションを重視した教材を用いて授業を進めるとなると，過去形を多く含む物語を集中的に学ぶ時間はほとんどないのだが，過去形が用いられた第６問には使用語彙に配慮を感じた。

比較的長い文を読む出題では，追・再試験の方が本試験よりも読みやすい印象を受けた。例えば，第４問の追・再試験では，学校と家庭と場面が変わっても話題は「理想の街」で一貫しているが，本試験では「衣類交換マーケット」開催に至る経緯に関する話題と，実際に準備をしている場面での会話となっており，テーマは同じでも会話の主題が異なっている。第５問でも，対話が行われている時と場所の移り変わりがなく，本試験より内容を把握しやすい。

共通テスト「ドイツ語」にはリスニングの設定がなく，受験者にアクセントや母音の長短への意識を持たせるためにも，アクセントなど発音に関する出題を維持してほしい。

「思考力・判断力・表現力等」を問うことを共通テストでは意識しているのかもしれないが，記述式の出題がない中で，それらの能力を問うには限界があると感じている。

5　ま　と　め

追・再試験について，幾つかの観点から意見を述べたが，英語とは違いドイツ語の学習環境は多種多様であり一般化することができない。その中で，高校の現状を鑑みて，英語以外の外国語学習に対して意欲的に取り組む生徒の実力が測れるような「ドイツ語」の問題作成に，多くの時間と労力を割いてくださっている問題作成委員の方々に心から感謝申し上げる。